ペンギンの研究者にインタビュー

高橋（たかはし）　晃周（あきのり）さん

プロフィール

・京都府出身。北海道大学卒業、総合研究大学院大学極域科学専攻博士課程修了。英国南極調査所等での研究員を経て、現在国立極地研究所准教授。
・第 40 次、52 次、54 次、60 次南極観測隊に参加。この他、英国の南極基地に５回、韓国の南極基地に１回。
・好きなペンギンの種類：ヒゲペンギン

（2019 年７月現在）

どうしてペンギンの研究に興味をもったのですか？ペンギンの魅力を教えてください。

小学生のときから鳥を見るのが趣味でした。高校で山岳部に入るほど山登りも好きだったので、南極には憧れがありました。修士論文を書くために、北海道の離島にこもって海鳥の調査をしているときに、同じ島に調査にきた極地研の人から南極でのバイオロギングを使ったペンギン研究の話を聞き、おもしろそうだなと思って極地研の大学院に進みました。
ペンギンの生態を研究すると、ペンギンのことがわかるだけでなく、ペンギンが食べるオキアミや魚のことや、さらにはオキアミが食べるアイスアルジーなど藻類と氷の関係など、南極海の生態系全体の生き物同士のつながりが見えてきます。そんなところに魅力を感じながら研究を続けています。

ご自身の研究内容を教えてください。

私たちの研究チームが目指しているのは、南極の環境変化がペンギンに与える影響を明らかにすることです。すでに温暖化が顕著に進んでいる南極半島域では、過去 40 年の間にアデリーペンギンの個体数が２割くらいにまで減ってしまっています。一方、昭和基地のある東南極域では同じ間に個体数は倍くらいに増えています。東南極域は、これまで長期的な気温の変化は観測されていませんが、今後もし温暖化が進むとどうなるのか明らかにするために、アデリーペンギンの行動・生態と海氷の関係、食べ物となるオキアミや魚との関係、冬の間の移動経路などを調べています。

【ペンギン調査のときは南極でキャンプ生活】

子どもたちにむけてメッセージをお願いします。

暑い中、南極・北極科学館に来てもらってありがとうございます。このペンギンの企画展で、なにか一つでもおもしろいなあと思ってもらえるものがあると嬉しいです。